

ボイジャー、遙かなる宇宙への旅

宇宙、それは何と神秘的なのでしょう。

「宇宙に終わりは来るのか」「宇宙には限りがあるのか」「宇宙の大きさは」などなど、宇宙は謎に充ちており、宇宙への憧れは、幾つになっても褪せることはありません。

ガガーリンが人類最初の宇宙飛行士として地球を回ったのは、私が15の時でした。

今から考えれば、地球をたった1回回っただけなのに、ラジオから流れるニュースをワクワクしながら聴いていたのを思い出します。

アメリカのアームストロングとオールドリンという二人の宇宙飛行士が、月面に降り立った時は感動しました。職場の中も、みんな手を止めてテレビに見入っていました。宇宙との距離が一拳に縮まった気がしたものです。

また、昨年6月、宇宙探査機「はやぶさ」は小惑星「いとかわ」に着陸した後、多くのトラブルに見舞われながらも、まさに満身創痍で帰還した時は、日本国中大騒ぎになりました。けなげな「はやぶさ」に、胸を熱くした方も多かったのではないかと思います。

そして今、米航空宇宙局の無人探査機ボイジャー1号が、まもなく太陽系を出て、漆黒の宇宙へと、飛び出そうとしています。

そのニュースを聞いたとき、「そうか、ボイジャー1号は、孤独な一人旅を続けていたんだな」と改めて思うと同時に、「これからは果てない旅になるのだな」と、多少感傷的な気分になりました。

ボイジャー1号は、1977年9月5日に打ち上げられて以来34年、現在は太陽から176億キロ離れたところを時速6万1千キロのスピードで飛行しています。

まず、176億キロというのが想像尽きませんが、ボイジャー1号から発信

された電波が管制センターに届くのに13時間もかかるということですから、とてつもなく遠いところだというしかありません。

我が太陽は、直径10万光年という天の川銀河を構成する約2000億個の恒星の一つで、銀河の中心からは約3億光年のところにあり、約2億3千万年かけて銀河系を周回しています。しかも、天の川銀河は、あまたある銀河の中の一つにすぎません。にもかかわらず、この広大無辺の大宇宙が秩序をもって存在していることに、人知を越えた神秘を感じてしまいます。

また、時速6万1千キロというスピードも凄まじいものです。ライフルの銃弾は、秒速1000メートルということですが、ボイジャー1号は秒速約17キロですので、ライフルの弾丸よりも早く飛んでいることになります。それでも、太陽系を抜けるのに34年間という時間を必要としました。

太陽からは、陽子や電子からなる「太陽風」が吹き出していますが、今年の2月には「太陽風」が事実上観測できなくなっており、人間が作った物体としては初めて太陽系を脱出するのも間もなくです。

ボイジャー1号は太陽系を出た後も、探査機の機能が活着している限り、星間物質の状態を直接観測したデータを送り続けてくれるそうです。

最後まで働けと尻を叩かれているようで、身につまされる感じもしますが、果てない旅を続けるボイジャー1号に、頑張れとエールを送らずにはられません。(塾頭 吉田 洋一)